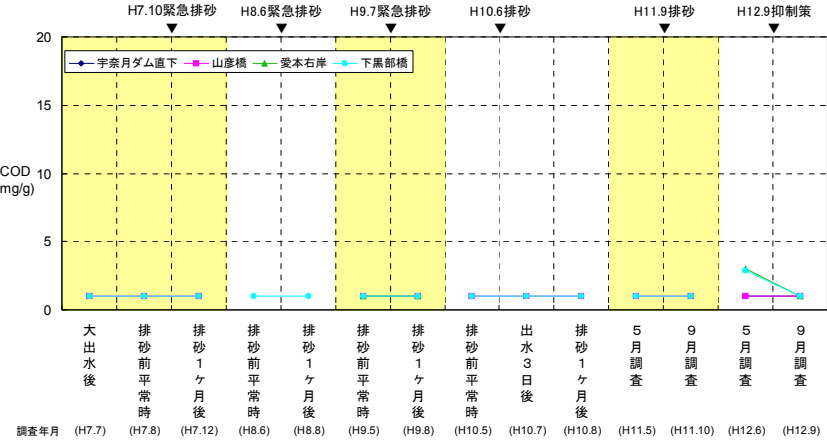


平成12年度 連携排砂に伴う環境影響継続調査結果について

河川底質

(1) COD

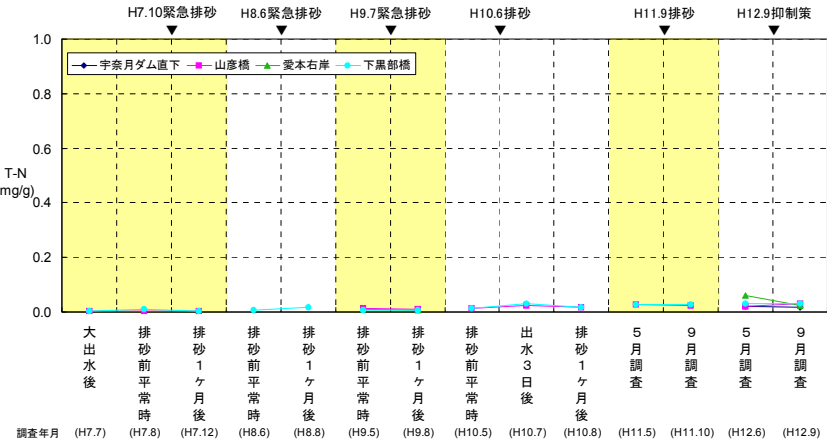
6月から9月調査にかけて、愛本右岸及び下黒部橋ではCODが3(mg/g)から定量下限値以下(1mg/g未満)に低下した。



COD の推移

(2) T-N

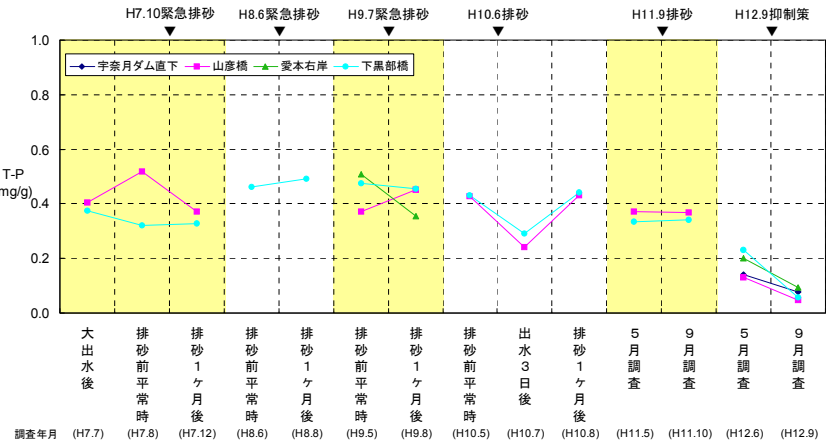
T-Nについては、6月から9月調査にかけて、顕著な変化はみられなかった。



T-N の推移

(3) T-P

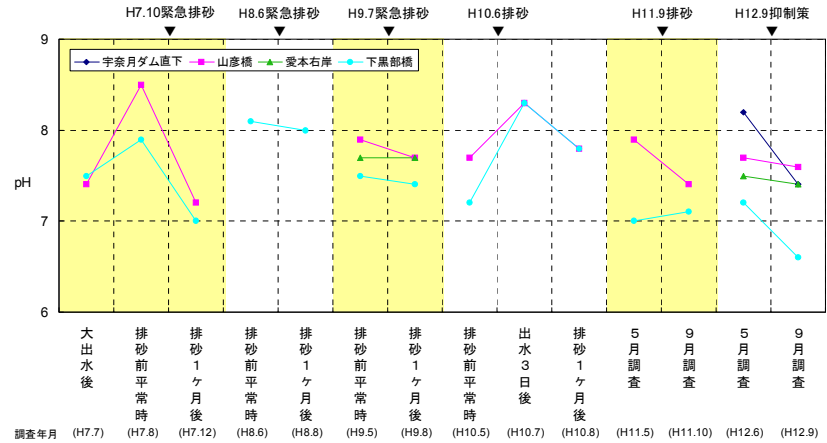
T-Pについては、6月から9月調査にかけて、各地点とも値が低下した。



T-P の推移

(4) pH

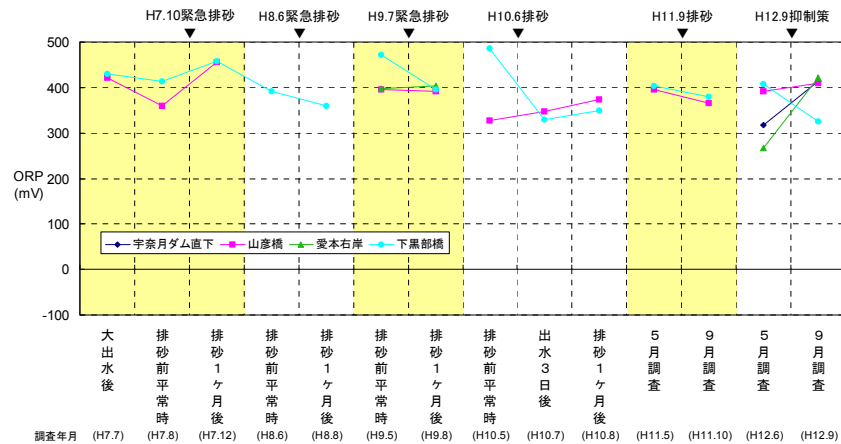
pHについては、6月から9月調査にかけて、宇奈月ダム直下及び下黒部橋で値が低下した。



pH の推移

(5) ORP

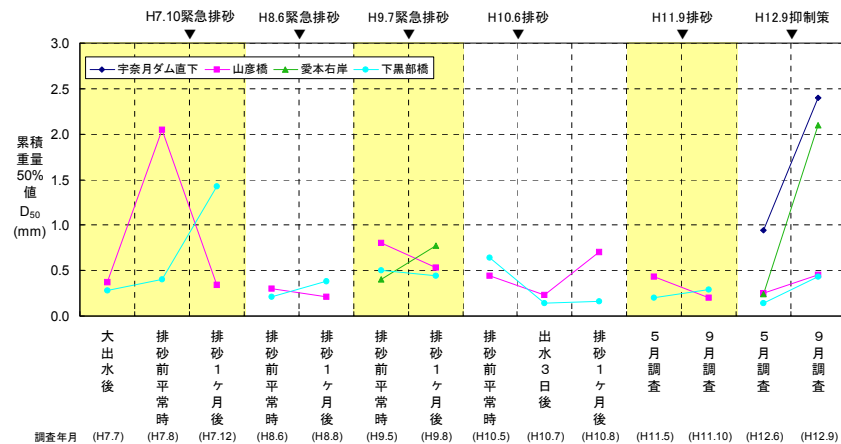
ORPについては、6月から9月調査にかけて顕著な低下はみられなかった。なお、各地点の観測値は267～422(mV)の範囲であった。



ORP の推移

(6) 粒度組成

粒度組成については、6月から9月調査にかけて宇奈月ダム直下及び愛本右岸で平均粒径が大きくなった。

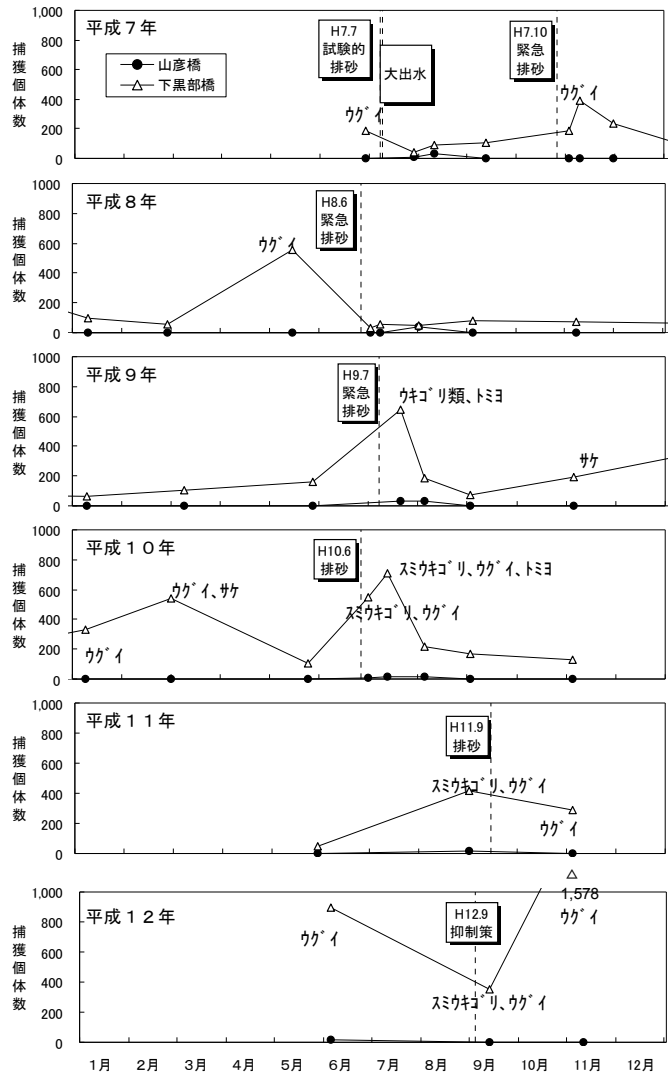


粒度組成（累積重量 50%値 (D₅₀)）の推移

河川水生生物

(1) 魚類

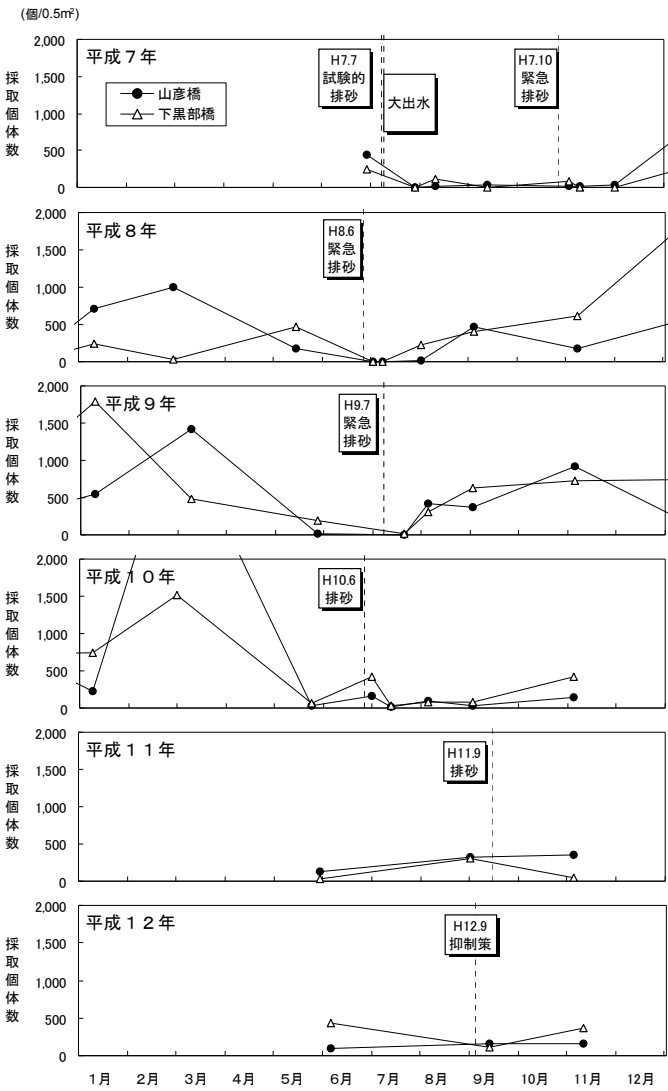
山彦橋では平成 11 年までと同様に、イワナ、ヤマメ、カジカが捕獲された。下黒部橋では、ウグイヤスミウキゴリが多数捕獲された。



魚類 捕獲個体数の推移（アユ、イワナ、ヤマメ、カジカを除く）

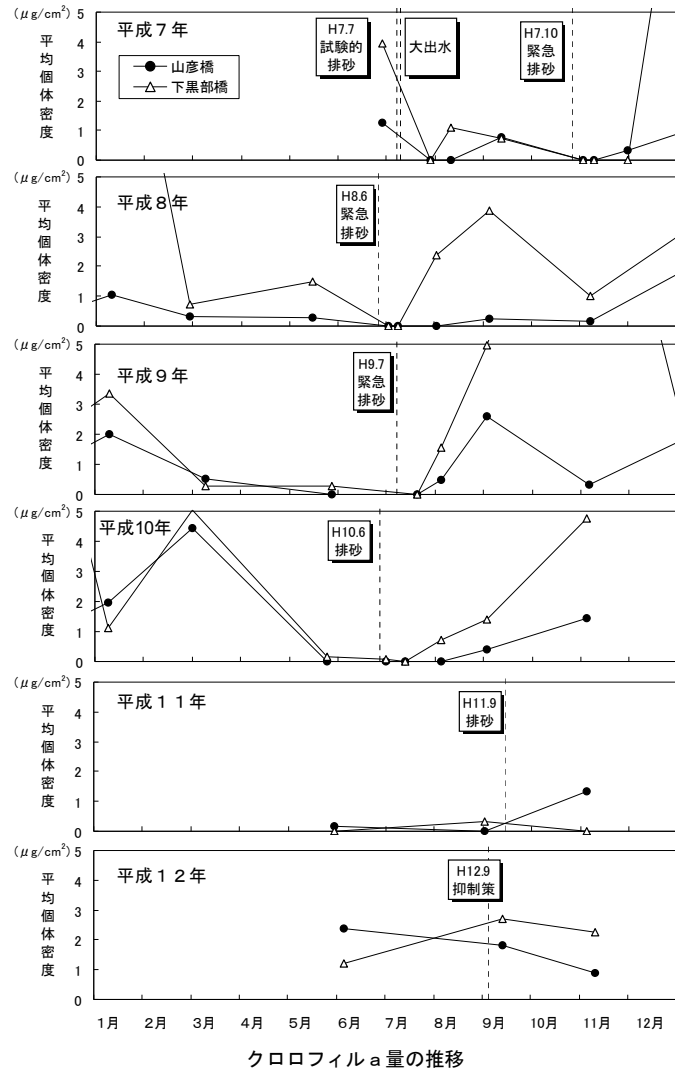
(2) 底生動物

採取種類数は、平成 11 年までと比較して 6 月時点では少なかったが、9 月及び 11 月では平成 11 年までと同様の種類数であった。採取個体数については、平成 10 年、11 年と同様の推移であった。また、各地点ともシロハラコカゲロウ又はエリュスリカ亜科が優占していた。



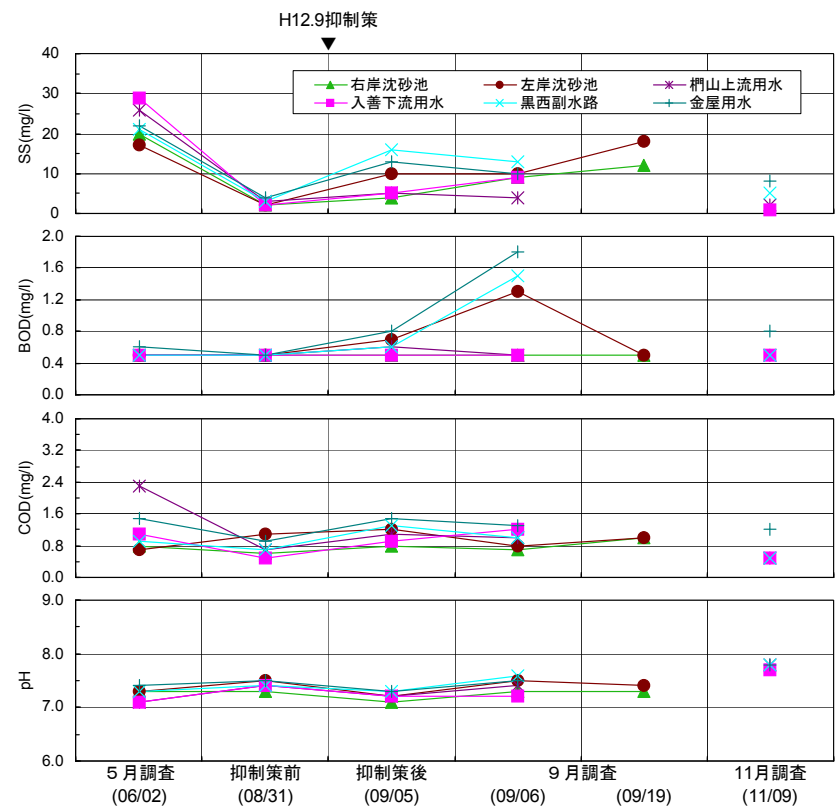
(3) 付着藻類

採取種類数は、平成 11 年までと同様の傾向に顕著な変化はみられなかった。また、各地点とも珪藻類が優占していた。さらに、採取量の目安となるクロロフィル a については、平成 11 年までに比較して 6 月時点でのクロロフィル a 量が多かった。



用水路水質

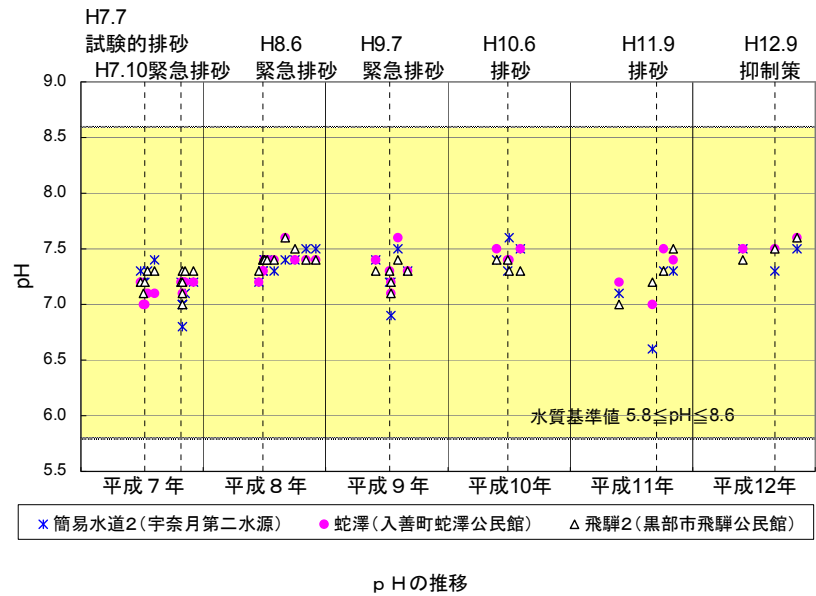
6 月調査、変質抑制策前後、9 月調査及び 11 月調査において、用水路の水質については、9/6
の左岸側 3 地点の BOD の増加を除き、顕著な変化はみられなかった。



地下水

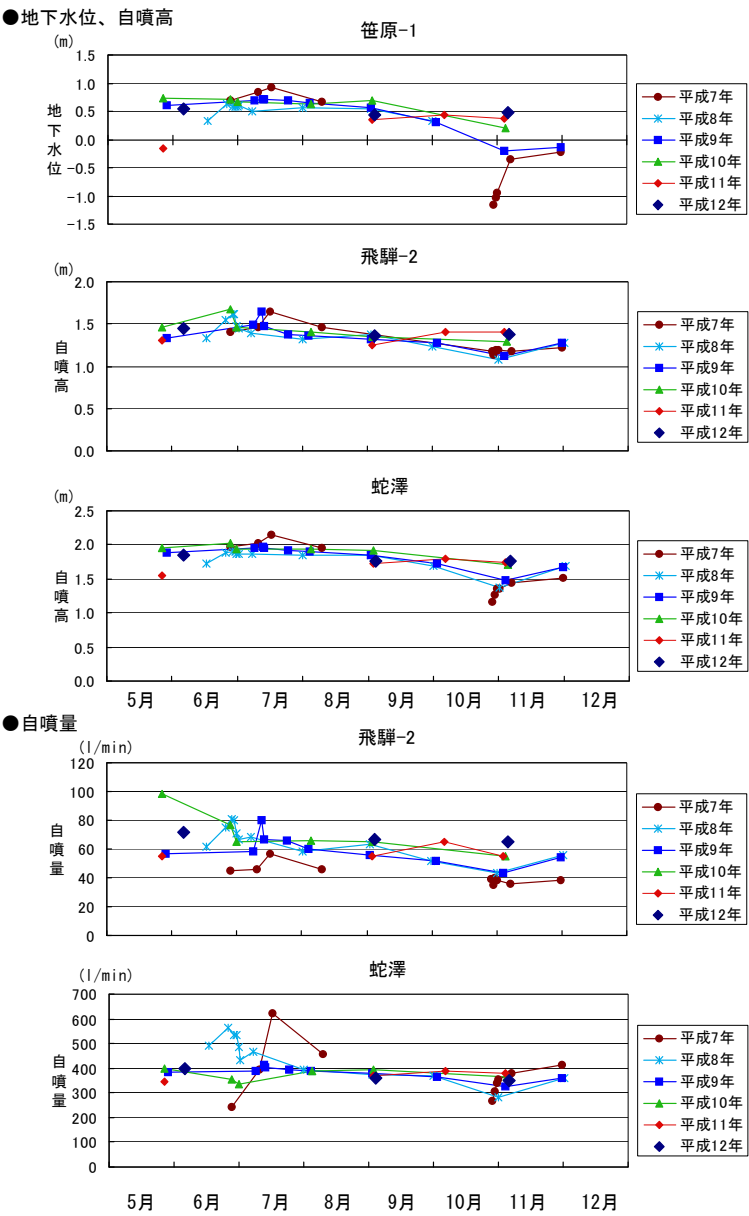
(1) 水 質

6月、9月、11月調査における、地下水のpH、濁度に顕著な変化はみられなかった。
また、pH、濁度とも、水道法による水質基準値を満足していた。



(2) 地下水位、自噴高、自噴量

6月、9月、11月調査における地下水位、自噴高、自噴量は、平成11年までと同程度の値であった。



海域水質

6月から9月調査にかけて、各地点とも顕著な変化はみられなかった。

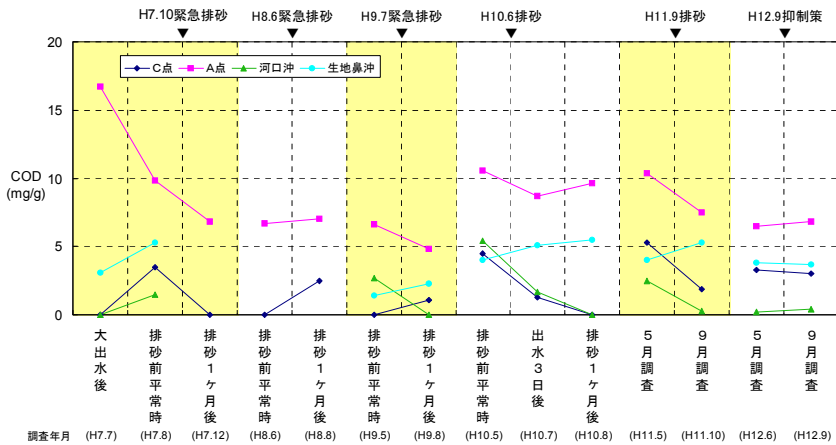
海域水質分析結果

地 点	採水月日	水温(℃)	塩分(‰)	pH	COD(mg/l)	SS(mg/l)	DO(mg/l)	DO飽和率(%)
C 点	00/06/02	18.7	30.7	8.2	1.5	3	7.8	103
	00/09/19	26.0	29.5	8.2	1.6	5	7.3	109
A 点	00/06/02	19.0	27.9	8.2	1.6	5	7.9	103
	00/09/19	26.0	29.5	8.2	1.9	1	7.3	109
河口沖	00/06/02	18.5	28.8	8.2	1.4	3	7.9	102
	00/09/19	26.3	29.9	8.2	2.0	2	7.1	107
生地鼻沖	00/06/02	18.6	27.4	8.1	1.8	2	7.9	102
	00/09/19	26.4	30.0	8.1	2.0	2	7.2	108

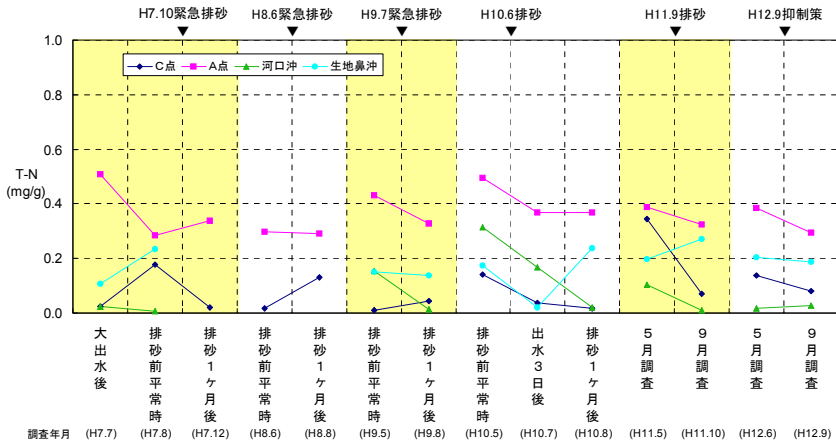
海域底質

(1) COD、T-N、T-P

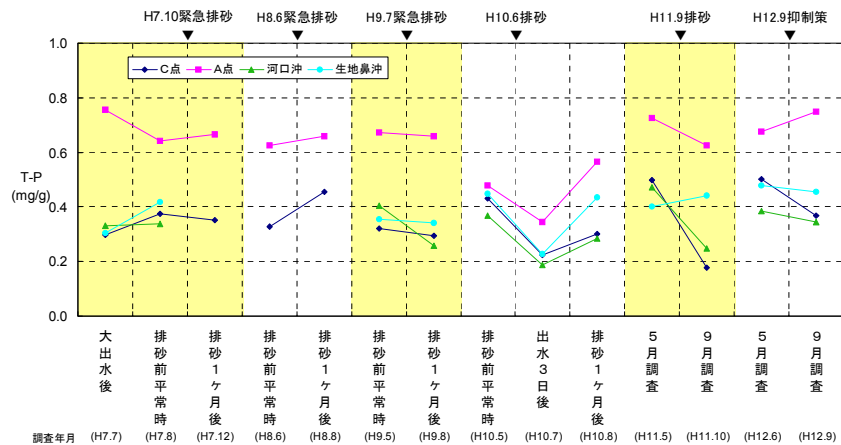
6月から9月調査にかけて、COD、T-N、T-P は、各地点とも顕著な変化はみられなかった。
なお、観測最大値はCOD=7.1(mg/g)、T-N=0.537(mg/g)、T-P=0.923(mg/g)であった。また、pHは7.3~8.2の範囲であった。



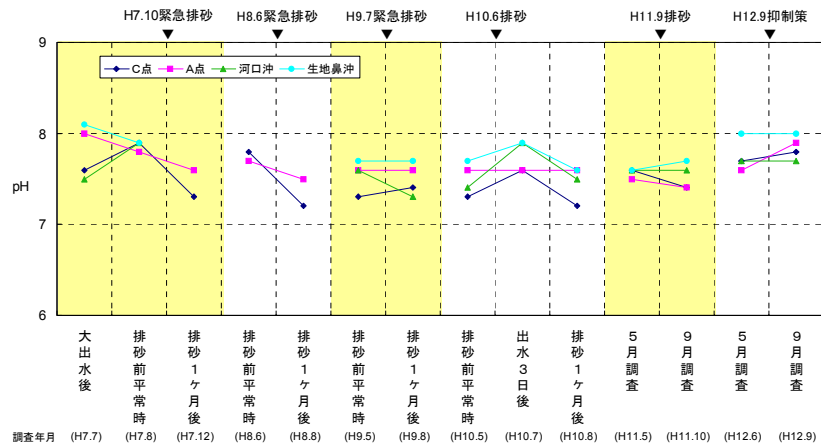
COD の推移



T-N の推移



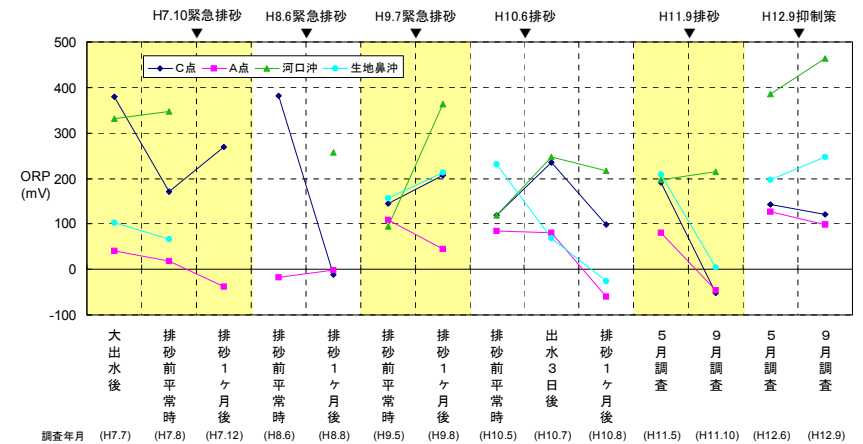
T-P の推移



pH の推移

(2) ORP

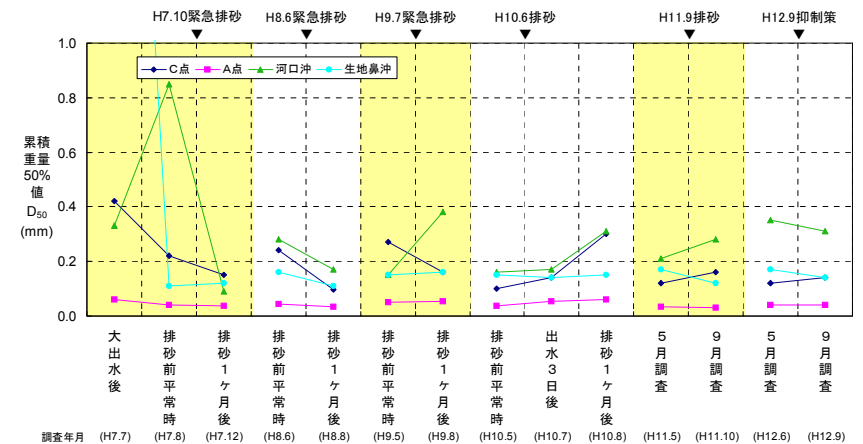
6月から9月調査にかけて、ORP の顕著な低下はみられなかった。また、黒部川沖合の小型底引網 2 及び 3 地点、パイ簾・ゴチ網漁場内地点等においては、ORP の観測値が約 100(mV) 増加した。なお、各地点の観測値は 86~473(mV)の範囲であった。



ORP の推移

(3) 粒度組成

6月から9月調査にかけて、粒度組成は各地点とも顕著な変化はみられなかった。



粒度組成（累積重量 50%値 (D₅₀)）の推移

海域 堆積厚

入善漁港における堆積厚は、６月から９月調査までの間に変化はみられなかった。

堆積厚測量結果		堆積増加量 (m)
陸上からの測量	平 均 値	0.01
海上からの測量	測線No. 1平均	0.0
	測線No. 2平均	0.0
	測線No. 3平均	0.1
	平 均 値	0.0

※堆積増加量＝（排砂後平常時の地盤高）－（排砂前平常時の地盤高）

※調査月日

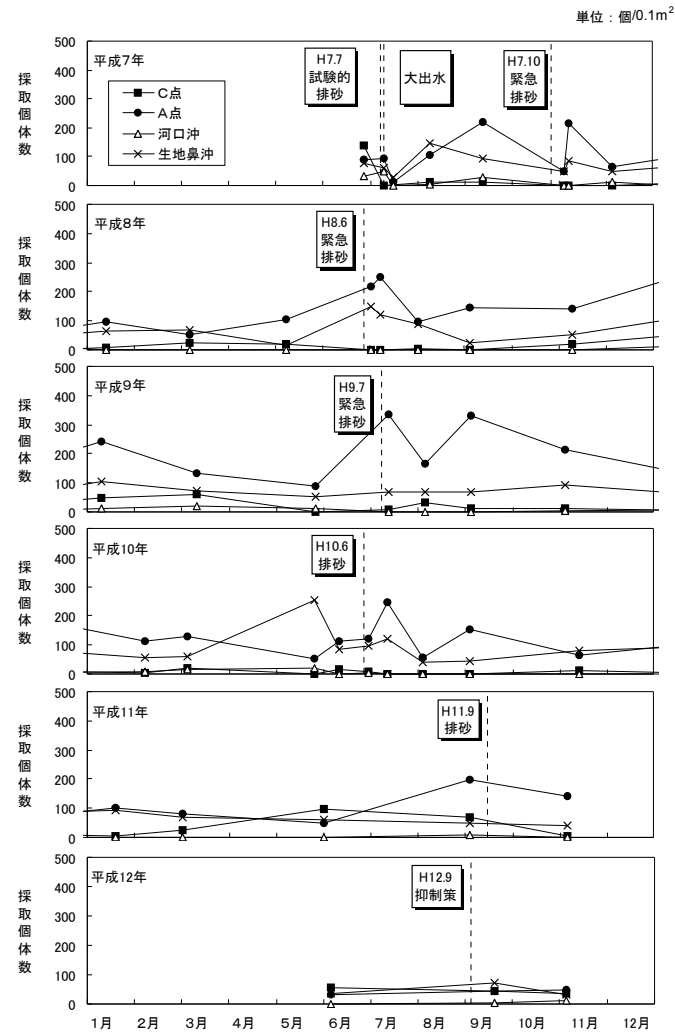
排砂前平常時： H12.6.6

排砂後平常時： H12.9.14

海域水生生物

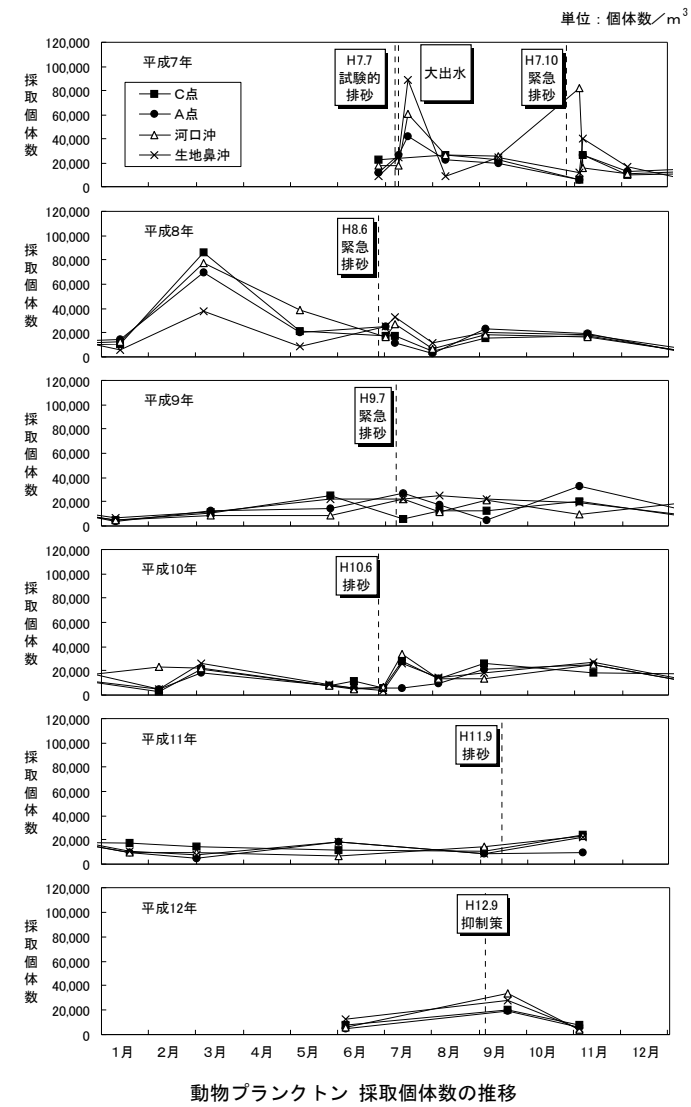
(1) 底生動物

採取種類数、採取個体数とも、平成 11 年までと同様の傾向であった。すなわち、河口沖では採取種類数、採取個体数とも少なく、その他の地点では 16~26 種類、33~72 個/0.1m²が採取された。また、各地点ともゴカイが最も多く採取された。



(2) 動物プランクトン

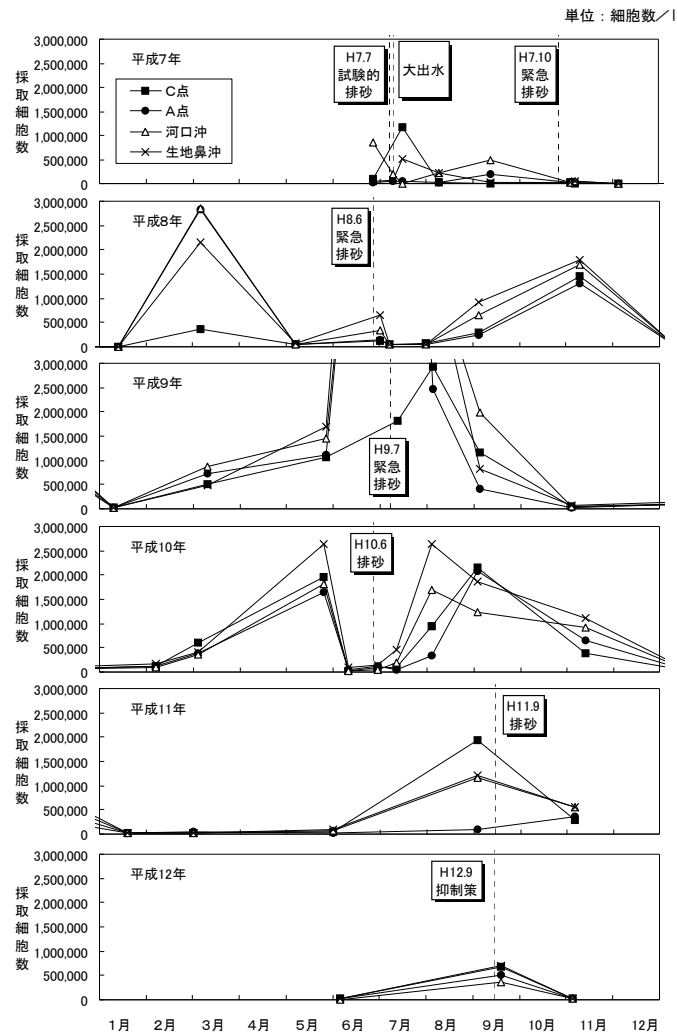
採取種類数は、平成 11 年までと同様に夏から秋に増加する傾向がみられた。一方、各地点とも 11 月調査において採取個体数が減少した。また、各地点とも橈脚類が優占していた。



(3) 植物プランクトン

採取種類数は、平成 11 年までと同様の傾向であった。一方、各地点とも 11 月調査において採取個体数が減少した。また、各地点とも珪藻類が優占していた。

さらに、クロロフィル a についても植物プランクトンの採取細胞数と同様に、11 月調査において採取量が減少した。



植物プランクトン 採取細胞数の推移